2026年11月13日

各　　位

会 社 名　　バルミューダ株式会社
代 表 者 名　　代表取締役社長 寺 尾　　玄
（コード：6612 東証グロース）
問い合わせ先　　経理・財務部長 松 井 卓 也
（TEL 0422-34-1701）

2026年12月期 連結業績予想の修正及び特別損失の計上見込みに関するお知らせ

2026年2月10日に開示した2026年12月期（2026年1月1日～2026年12月31日）の連結業績予想を以下の通り修正します。また、2026年12月期連結会計期間において特別損失を計上する見込みとなりましたので、お知らせします。

１．2026年12月期連結業績予想の修正（2026年1月1日～2026年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	10,500	30	15	10	1.17
今回修正予想（B）	8,900	△650	△670	△1,050	△123.32
増減額（B－A）	△1,600	△680	△685	△1,060	－
増減率((B/A)-1)	△15.2%	－	－	－	－
（参考） 前期実績（2025年12月期）	10,115	△866	△904	△1,596	△187.82

２．連結業績予想修正の理由

国内においては、物価上昇が続く中、家電等の耐久消費財に対する購買行動が慎重化していることに加え、低価格の類似品の拡大や異業種による生活家電市場への参入等、当社を取り巻く事業環境は厳しさを増しています。このような状況への対応として、当社は製品ラインナップの拡充を進めてきましたが、その一方で、主力製品の刷新長期化により、キッチン・空調カテゴリーの売上が減少しました。

これらの状況を踏まえ、当社は製品開発リソースを主力製品に集中し、9月にはBALMUDA The Toaster（スチームトースター）及びBALMUDA The Toaster Pro（サラマンダー機能つきスチームトースター）のフルリニューアルモデルを発売し、発売3日間で国内出荷台数が9,000台を突破するなど、順調な出足となりました。

また、今後の成長を担う新製品群として今春発売したThe Clock（パーソナルクロック）については、9月に新色を追加しました。更に、新機能として毎日の就寝前の習慣づくりをサポートする「Night Routine」を7月に、当社初のコンテンツサービスとなるパーソナルAIラジオ「BALMUDA Good Morning Radio」のβ版を10月にリリースするなど、製品・サービスの強化を進めました。

しかしながら、これらの施策による効果をもってしても売上全体の未達を補うには至らず、

期初に公表した売上高予想を下回る見込みとなりました。
収益性の改善施策については、8月に実施した価格改定や、売上規模に対応した組織体制の再編等を進めた結果、当第3四半期連結累計期間の売上総利益率は前年同期比で2.1ポイント改善し、販売費及び一般管理費は前年同期比で367百万円減少するなど、着実に効果が表れています。しかしながら、収益性は改善傾向にあるものの、売上高予想の修正を踏まえて、営業利益及び経常利益についても予想を修正しました。
親会社株主に帰属する当期純利益については、経常利益予想の修正に加え、下記の特別損失を計上する見込みとなったことから、予想を修正しました。

３．特別損失の計上見込みについて
当社は、来期の黒字転換に向けて、収益構造の再構築と成長基盤の強化に取り組んでいます。その一環として、組織・拠点再編による経営リソースの集中化を実現するため、本日開催の取締役会において「BALMUDA The Store Aoyama」（東京都港区）の営業終了を決議しました。また、今回の業績予想の修正を踏まえ、当期末に減損損失等を計上する見込みとなりました。
これらに伴い、2026年12月期連結会計期間において、特別損失380百万円を計上する見込みです。
なお、BALMUDA The Store Aoyamaが担っていた顧客との直接的なコミュニケーションについては、今後の製品・サービス展開を見据え、新たなあり方を検討していきます。

４．収益構造の再構築と成長基盤の強化
2027年12月期の黒字転換とその後の成長に向けた事業基盤の構築に向け、期初から推進してきた収益構造改善施策に加え、以下の「収益構造の再構築と成長基盤の強化」に着手しています。固定費構造の再構築と経営リソースの再配分は概ね完了しており、2027年12月期にはこれら諸施策の効果を通年で発現させ、黒字転換を実現します。

(1) 収益構造の再構築
・組織体制の再編による業務効率改善
-事業規模に応じた組織・人員体制への移行
-AI活用による業務効率化
・拠点再編による経営リソースの集中化
-組織・拠点再編を概ね完了

(2)開発リソースの重点配分
・主力製品への開発リソース集中により、継続的に進化・刷新する開発体制へ移行
-トースター2機種をフルリニューアル（2026年9月発売）
-トースター、レンジ、電気ケトル、扇風機を軸とした、主力製品の継続的な展開強化

(3)新たな事業領域の育成
・構造改革を進める一方、次の成長を担う事業の育成も着実に推進
-The Clockの進化
（2026年：新機能、新色の追加、2027年：更なる付加価値向上）

以上